

手描き学級通信「WONDER」



投稿者の先生：U-teacher（奥野木 優）

▶小学校 ▶学年共通 ▶学級経営 ▶学級通信

URL: <https://foresta.education/estanet/essence/detail/140307>

説明

物語と日常を繋ぐ「どこでもドア」

－WONDER－

この単語は、平成二十九年度の新しい学級が始まるにあたり、学級通信のタイトルを何にしようかと英語の辞書をそれとなくめくっていて、偶然目に飛び込んできたものである。
WONDERには、どうやら不思議、奇跡の意味があるらしい。
私は、この一年間が小さな奇跡や不思議がたくさんある学級にしたいとの想いから、学級通信のタイトルをWONDERにすることに決めた。
今回は、学級通信WONDERが学級経営にプラスの影響をもたらすということと、また学級経営を教師・児童・保護者の三者で「共育」していくために大きな役割を果たすものであるということを説明していきます。

それでは、まず学級通信WONDERがどのような教師のねらいや願いを持って、学級経営に位置付けられているのか、またその効果と作成のポイントについてまとめていきましょう。

この学級通信WONDERが、他の学級通信とは異色な点があります。それは、大きく分けて次に述べる三点です。

一つ目は、アナログな手書きにこだわっているということです。
パソコン全盛期の現代。学級通信は、パソコンの綺麗なフォントで作成するというのが主流です。
その時代の流れに逆行するかのよう、あえて手書きで学級通信を作成します。

手書きで学級通信を作成するメリットは、書く場所や時間を選ばないため、ベストのタイミングで書くことができるということ。
紙とペンさえあれば書くことができます。これは、パソコン作成にはない強みでしょう。

また保護者や子どもたちからは、手書きなので温かさが伝わって読みたくなるという嬉しい声をもらうことも多いです。
ファイリングをして、宝物のように持ってくれている児童も多いです。
その姿が、教師の書く意欲を向上させるという好循環を生み出します。

二つ目は、不定期発行で教師が出したい時に発行するということ。
一般的な学級通信は、定期的に週に一度の発行や、月に一度の発行というものが多いと思います。

しかし学級通信WONDERは、一枚も発行しない日もあれば、一日に五枚連続して発行するという時もあります。
なので、一学期だけで百五十号の発行を終えています。
質より量を意識しました。
質より量を意識して、発行することでアウトプットが得意な脳に変化していくと感じました。

アウトプットが得意な脳になると、毎日書かずにはいられなくなってくるのです。
すると、不定期発行と言いながら、ほぼ毎日発行することが当然ようになってきます。
週一度の発行より、毎日発行する方が簡単なのではないかと思うようになりました。

三つ目は、なんでもありの内容だということ。
特に書くテーマを設けないということが、学級通信WONDERの強みであり、魅力です。

今回、平成二十九年度に発行した全450号を分析し、日常的に発行し続けるための視点とポイントを十一個にまとめてみました。
学級通信でより良い学級づくりを行おうという、教師たちの力に少しでもなれたら幸いです。

①日常的な連絡事項

まず、日常的な連絡事項は一つの題材です。
しかし、ここでも必ずイラストを添えるようにしています。
イラストがあった方が読みやすいという児童の声を取り入れて、やり始めたのですが、関連するイラストを添えることで読んでみたいとい

気持ちがわき上がるようです。
文字ばかりで余白のない通信は、読み手側からするとハードルが高いです。
読み手側を意識したレイアウトの工夫が大切だと感じました。

②学校行事

例えば宿泊学習。事前準備の段階では持ち物や服装、班活動の心構えなどの詳細な連絡ができ、事後では詳細な活動報告が出来ます。
学級通信WONDERが保護者と児童のコミュニケーションの話のきっかけになることもあるようです。
親と子のコミュニケーションツールとして機能し、「共育」に寄与しています。

③学級目標

学級目標を作成、活用する際にも効果を発揮します。
まず学級目標を作成する前段階で、学級目標がどんなものなのかの趣意説明、学級目標に対する教師の願い、児童から集めた学級目標に入
れたいキーワードの共有、クラスメタファーの募集などの際に使用しました。
学級会で学級目標が決定した後も、学級目標の達成度を測ったり、掲示物のイメージ図を載せてみたりと様々な面で使用しました。

今後も、学校行事が終わった後などには、学級目標に照らしあわせた振り返りなどを学級通信WONDER上で行い、保護者にも見てもらい
コメントをもらう予定です。
教師・児童・保護者が参画しやすいインタラクティブな仕掛けを施していきたいなあとと思います。

④教師の願いを伝える

教師の願いや思いを伝える機能を果たすこともあります。
例えば、どんな学級と一緒に作っていききたいのか。
どんな人間に育って欲しいかなどです。
あまり長いとお説教じみた、つまらないものになってしまいがちなので、自身の小さい頃の失敗談や経験などを混じえて書くことが多いで
す。

⑤授業の振り返り

授業の振り返りや補助資料として、活用することもありました。
例えば、上の写真(WONDER-5)はグローバルスタディの授業で三人称単数の学習をした翌日に発行したものです。
授業で、つまづいている児童が多いということが、授業中の雰囲気や振り返りからわかっていたので、作成しました。

授業時間は45分間しかなく、授業時間内では理解することが難しかった児童も、この号の説明を読んで理解することができたという声も挙
がりました。
何をどのように学んでいるのか、具体的に紹介する。
授業に取り組む姿勢や、どんな所でつまづいている児童が多いかなどを伝えることで、保護者も授業の様子を知ることができ安心し、子
どもに学習のフォローを入れてくれることもありました。

⑥子どもの良さを認め、共有する

学級通信WONDERはポジティブな情報を発信することを原則としています。
時に、「GOODPOINT」という、児童の良さや良い行動を似顔絵入りで紹介する号があります。

「GOODPOINT」の号を発行する時には、必ず意識することがありました。
それは、「全員の名前を載せる」ということです。

そのためには、ふだんから子どもたちの様子をよく観察し、全員の良い所や行動をすぐに書けるようにしておく必要があります。
そうしていると、たくさん良いところが書ける児童と、あまり書くことができない児童がいることに気がつき、愕然とします。
そうして、「あまり書くことができない児童をよく見ていこう」、「よりコミュニケーションをとろう」という姿勢になってきます。

⑦児童による授業評価

児童の授業評価というものは、教師の授業改善にとっても役に立ちます。
あらかじめ、児童には無記名で、教師の授業を本音で評価して欲しいという話をしてから、この授業評価を書いてもらいます。

多くの児童は、授業の良い点を書いてくれました。
そして、それを保護者も見ると通信に載せることで、授業に対する児童のポジティブな姿勢を共有することができます。

しかし、中には教師が痛いところをつかれたと思うような、非常に的確な批評を書く児童がいます。
その声を批判ととらえるのではなく、成長のダイヤモンドと前向きに捉えることで、新たな授業改善のヒントが見つかることがあります。

⑧著名人の逸話の紹介

一流のミュージシャンやアスリートの言葉は響きます。

例えば、私が野球少年に「道具は丁寧に使った方が良いよ」というより、メジャーリーガーのイチロー選手が「道具は丁寧に使った方が良いよ」と言った方が遥かに心に響くでしょう。

一流の方が発する言葉というものは、重みが違います。

そこに辿り着くまでに積み重ねてきた努力。

想像を絶するプレッシャーに打ち勝ってきた背中。

何か伝えたいことがあった時、学級で共有したいことがあった時に、著名人の逸話を紹介することで教師のメッセージが伝わりやすくなる時があります。

⑨学び方について考える

外国の学校や日本の企業などで取り入れられている、新たな学びを紹介する場としての役割もあります。

例えばマインドマップ、メタ認知、マルチプルインテリジェンス、国際バカロレアの目指す学習者像などです。

目の前の児童の様子を見て、有効だと思う学びの情報を惜しみなく提供します。

また提供するだけでなく、朝の会などを有効に使ってちょっとしたミニ授業を行い、具体的な行動に移すことができますようにします。

全員が理解することは難しいかもしれませんが、学級の何人かが理解し、行動することで新たな風が学級内に吹きます。

そのために、教師は有効な学びはないかと常に学び続ける向上心を持ち続ける必要が現れます。

⑩学級としての挑戦事項を確認する

自主学習は、どうしても個人で頑張る学習になりがちです。

そうすると、モチベーションの維持が難しかったり、自主学習の質があがらなかったりと停滞しがちです。

そこで、自主学習を学級というチームでの取り組みに転化させます。

学級通信WONDER上に突然怪盗が現れたという設定にして、「二週間で学級全員で1000ページを超えてみせよ」などの課題を与えてみます。

そして、二週間後に、自主学習を何ページやったか集計します。

課題を達成した時の喜びはひとしおで、学級に体感が生まれますよ。

⑪教師自身が感動した体験を語る

縦割り学級などで、高学年らしさを見せた時や、学校行事で活躍した時、また学校生活の中で友達に優しい言動をできた時などの機会を捉えて、通信上で紹介をします。

その際、教師が感動したことや、素晴らしいと感じたことなどをしっかりと価値付けすることで、「次は自分もやってみよう」と思える児童が増えていきます。

言葉でも伝えるが、文字として伝えることで後まで残るとともに、保護者にも伝わり、そして児童の行動を認め、より頑張ろうというやる気にもつながります。

以上が、学級通信WONDERを作成する際の視点とポイントです。

一年間の終わりには、多くの保護者から通信の発行を楽しみにしている声を手紙や連絡帳から多数頂いたり、児童からも通信を待ち望む声があがるなど、学級経営に欠かせない存在になっていることを感じました。

特に、自分の名前が載っている通信は宝物のように大事に持って保存してくれている児童が多いです。

また、通信の余白に保護者からの応援メッセージを寄せて頂く欄を設けていたのですが、学級通信WONDERがあることで、「今まで会話もあまりなかったが、積極的に学校生活のことを話してくれるきっかけになった」という声や、「通信に自分の名前が載り認めてもらったことがとても嬉しかったようで、今までにないくらいやる気になっている」などの嬉しい声が寄せられるようになり、学級内に温かい雰囲気生まれるようになりました。

学級通信WONDERを書き続けていて、良かったと思える瞬間です。

全国の学級で小さな奇跡－WONDER－がたくさん起きてくれることを願います。

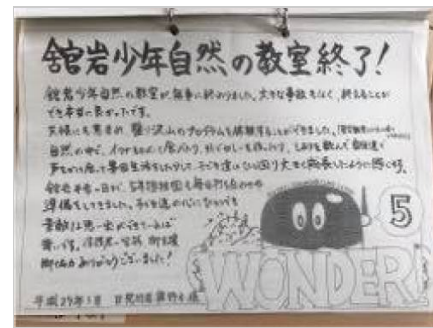
あ。ちなみにこの学級通信WONDERの本がAmazon限定で販売されています。宜しければご一読くださいませ。

以上、宣伝した笑

<https://www.amazon.co.jp/WONDER-%E3%83%BC%E5%AD%A6%E7%B4%9A%E9%80%9A%E4%BF%A1%E3%81%8C%E6%94%AF%E3%81%88%E3%82%8BWONDER%E3%81%AA%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%B9%E3%81%AE%E3%81%A4%E3%81%8F%E3%82%8A%E6%96%B9%E3%83%BC-%E5%A5%A5%E9%87%8E%E6%9C%A8-%E5%84%AA/dp/4955110274>



WONDER-1



WONDER-2



WONDER-3



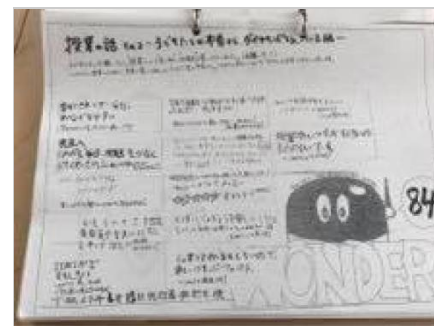
WONDER-4



WONDER-5



WONDER-6



WONDER-7



WONDER-8



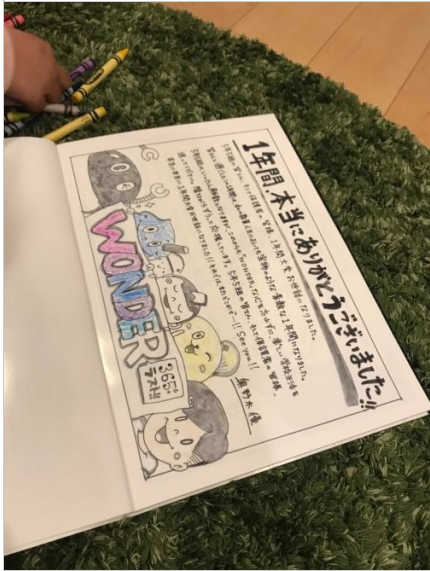
WONDER-9



WONDER-10



WONDER-11



Copyright © SPRIX All Rights Reserved.